

大里地域のふるさとを守る会

ひづみ
(山口県柳井市日積)



資源の概要

| | | | | |
|-------|--------------------|--------|--------|---------|
| 位置 | 柳井市日積 大里集落などの一円の地域 | | | |
| 農用地 | 地目 | 田 | 畑 | 計 |
| | 対象農用地 | 42.7ha | 1.8 ha | 44.5 ha |
| 農業用施設 | 開水路 | | 農道 | |
| | 20.9km | | 9.5km | |

構成員

1. 農業者等……25人(うち1組織)

農事組合法人 あいさいの里(代表 榎本正男)

農業者 24人

2. 非農業者等……21組織

関係自治会

(尾崎原・宮ノ下・北智雲院・中院・大里・北小国)

柳井市土地改良区

大里地域農地利用調整組合(各10支部)

中山間直支地域(3集落)

あいさいの里利用権設定農家

共同活動の概要



農地の草刈り



水路の点検



頭首工清掃



水路清掃

営農活動の概要

地域全体の農家が行う環境負荷低減に資する取組

①有機物資源の循環利用の促進を通じた環境負荷の低減

- たい肥等有機質資材の施用

②有機物資源の循環利用の促進を通じた環境負荷の低減

- 有機質肥料の施用

- フェロモン剤の利用

- 光利用技術の利用

- 温熱種子消毒技術の利用



量販店でのエコ米販売(H20.10.17)

**地域を活性化させる法人経営を目指して！
農事組合法人 あいさいの里（柳井市日積）**



(農)あいさいの里 設立の経緯

問題点

農家の高
齢化

農道がな
い、狭い

用排水路
が不備

農業に興
味がな

97全戸にアンケート調
査を実施しました

後継者がいないため、
5年後の農作業が困
難との回答がほとん
ど。
担い手の希望者なし

法人を担い手にし、担い手育
成型のほ場整備事業を実施
することに決定

問題点

遊休農地
が多い

水稲のみ
作付

2種兼業
がほとん
ど

農業をし
なくても
生活でき
る

(農)あいさいの里の概要

- 設立年月日 : 平成16年3月4日
- 構成員数 : 25名(理事7名、監事2名)
- 出資金 : 338万円(1口2万、3口以上)
- 地代と時給 : 12,000円/10a, 700~1,200円

(農)あいさいの里のスローガン

- **農地の保全** (耕作放棄地ゼロを厳守)
- **環境の保全** (エコ農業を目指し、あいさいの里をエコの里にする)
- **地域の活性化** (雇用を増やし、若い世代の流出を防ぐ)

環境への主な取り組み(水稲)

農地・水・環境の環境部門で
6,000円/10aの補助に挑戦

エコファーマー
エコ山〇50の認
証を受けている

農地・水・環境に
取り組み、道水
路、法面の草刈
り、泥上げ、補修
を行っている

全てJAS認定有機肥料を使用する。
毎年、100の圃場で土壌分析を行う。

農薬は、慣行の1/2未満を厳守する。

種子の消毒は、温湯(60度10分)で行う。

浅水代掻きを行い、泥水を排水しない。

農薬散布後、7日間は落水しない。

水田、用排水路、河川の生き物調査を実施する。(小学生の親子)

(農)あいさいの里が行っているイベント等

目的

アスパラガスの摘み取り体験(公募)

かぼちゃ祭り

タマネギの収穫体験
(小学1,2年生、公募)

キャベツの収穫体験
(公募)

キャベツの収穫体験とエコ
農業見学(小学3年生)

職業(農作業)体験
(柳井中学2年生)

安全・安心な農産物の拡販と
将来の担い手確保

アスパラガスの摘み取り体験(夏芽)



アスパラガスの春芽

タマネギ収穫体験(小学1, 2年生)



キャベツの定植(中学生体験実習)



キャベツの収穫体験(小学3年生)



かぼちゃ祭り

農地・水・環境保全向上対策の中で「(農)あいさいの里」が 地域活性化のために果たしている役割について

経験豊かな高齢者と中、低年齢層を雇用し、コミュニケーションを高め、将来の担い手、及び労働力を確保する

3K農業は昔の話。小、中学校における教育で地元の大規模エコ農業をPRしてもらう

子育て世代の主婦を雇用(勤務可能な時間)し、都会への家族流出を食い止める

法人は、農地・水・環境及び中山間直接支払い制度と連携し、地域の住民全体で支援してもらう

雇用の場を提供し、都会へ流出した人材を呼び戻す

農家保有米、自販米は安全・安心な一等エコ米を提供し、地域や販売先の信用を高める

小、中学校の生徒の体験学習を積極的に受け入れ、一人でも将来の担い手になってくれるようアピールする

食と緑と水の県民フォーラムで収穫体験等を実施し、都市との交流を深め、販売促進を図る